

鹿苑に收容されている「奈良のシカ」の由来とその收容頭数

1. 鹿苑におけるシカの收容施設について

鹿苑は1929(昭和4)年にシカの保護收容施設として開設され、現在では、総面積15,760㎡、うちシカの收容施設部分は14,226㎡となっている。この他、鹿苑改修工事に伴う仮の收容場所(仮囲い柵)が約3,000㎡ある(図1)。

鹿苑におけるシカの收容施設はいくつかの区画に分けられており、傷病シカ等を一時收容する区画と、農作物被害を起こしたシカや傷病シカで重症等により開放が困難なシカを收容する「特別柵」と呼ばれる区画がある。

特別柵に收容されたシカは、終生鹿苑内で飼養され、オスとメス、傷病個体はそれぞれ区画を分けて飼養されている。

特別柵は、鹿苑内において固定された区画にあるのではなく、シカの收容状況等に合わせて適宜シカを移動させている。永久收容となっている個体が收容されている区画のことを「特別柵」と呼んでいる。特別柵となる区画内には水場、餌場、日除け場が設けられ、愛護会職員により日々清掃等の管理が行われている。



図1 鹿苑の位置 (Google Map に加筆)
收容施設はいくつかの区画に分けられている

2. 鹿苑に収容されているシカの由来

鹿苑に収容されているシカの区分を表 1 に示す。

表 1 鹿苑に収容されているシカの由来

収容区分	由来区分	内容
特別柵	捕獲柵・捕獲檻	農作物被害が発生し、捕獲柵・捕獲檻により捕獲された個体。
特別柵	農地・市街地	農地において、ネット等にかかった個体等。市街地における家庭菜園等に繰り返し出沒した個体。
一時収容	人身等被害防止	人身事故等の被害防止のために捕獲された個体。出産期のメス及び仔シカ、発情期のオスが含まれる。
一時収容	傷病鹿等	交通事故等で怪我をした個体。病気になった個体。

※重症個体は特別柵

3. 鹿苑に収容されているシカの頭数

表 1 における由来区分別の、鹿苑への新規収容頭数の平成 29 年度以降の推移を表 2 に示す。このうち、特別柵に収容されている「捕獲柵・捕獲檻」及び「農地・市街地」のシカは収容数合計の 11~31%程度の割合となっている。

なお、令和 2 年度の新規収容頭数が他年度よりも突出して多くなっているが、これは新型コロナウイルスの影響により、奈良公園周辺に出沒したシカに対する問合せ、出動が増えたことによるものである。

表 2 鹿苑への新規収容頭数の推移（由来別）

年度	特別柵			一時収容		合計
	捕獲柵・捕獲檻	農地・市街地	小計	人身等被害防止	傷病鹿等※	
H29	80	45	125	559	146	830
H30	102	39	141	630	182	953
R01	74	77	151	673	178	1,002
R02	100	209	309	506	179	994
R03	87	29	116	428	101	645
R04	54	24	78	491	97	666

※傷病シカのうち一部の個体は特別柵に収容されている

出典：奈良の鹿愛護会資料

収容頭数の地区区分別の内訳（令和5年12月3日現在）

令和5年12月3日時点における、特別柵及び一時収容柵に収容されているシカの地区区分別内訳を表3に示す。12月3日現在、収容頭数合計は306頭となっており、うち特別柵内の収容頭数は268頭（約88%）、一時収容柵内の収容頭数は38頭（約12%）、となっている。

特別柵内のシカはC地区において農作物被害を起こしたシカが9割以上となっている。

なお、特別柵内のシカでD地区において捕獲された7頭については、令和3年度以前に捕獲され継続して飼養されている個体である。D地区由来のシカは令和4年度以降捕獲されていない。

表3 特別柵、一時収容柵に収容されているシカの地区区分別内訳（令和5年12月3日現在）

捕獲 地区	特別柵		その他の柵（一時収容柵）			
	農作物被害を 起こしたシカ	傷病シカ ※永久収容	人身事故を 起こしたシカ ※概ね発情期、妊娠期 を過ぎれば開放	傷病シカ	出産の近い シカ	仔シカ
A地区	0 ※農地は ほぼ無し	♂6 ♀3 [計9]	0	♂10 ♀9 子10 [計29]	0	0
B地区	♀6 [計6]	0	0	♂1 子1 [計2]	0	0
C地区	♂117 ♀129 [計246]	0	—	♂6 子1 [計7]	0	0
D地区	♂4 ♀3 [計7]※	0	—	0	0	0

※特別柵内のシカでD地区において捕獲された7頭については、令和3年度以前に捕獲され継続して飼養されている個体。

D地区由来のシカは令和4年度以降捕獲されていない。

出典：奈良の鹿愛護会資料